



福祉よこはま

社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会



「福祉よこはま」は、横浜市が編集に協力しています

特集

認知症になっても 安心して暮らせるまちづくり



都筑区池辺町 ファミリーカフェにて
取材当日参加された皆さん
(10月9日撮影)
→詳しくは特集で

もくじ

p4 福祉の仕事 医療ソーシャルワーカー (MSW)

p5 ボラセン情報 寄付をとおした、コロナ下での支えあい
新型コロナウイルス感染症の影響などによる 困難を抱える方への食支援

p6 市社協情報 第5期 横浜市市民後見人養成課程説明会 開催 !!

ここから最新号と
バックナンバーを
ご覧になれます



福祉よこはま 検索

認知症カフェとは

認知症の人や家族、地域住民など、誰もが気軽に集える場。参加者同士がつながり、理解を深め、自分らしく社会との関わりを持てる場であり、国の「認知症施策推進大綱」(2019年)の中で、住み慣れた地域で自分らしく暮らしていける環境づくりを目指す取り組みとして位置づけられています。

認知症に 安心して まちづ

認知症は誰でも発症する可能性
なってもできることを活かしながら
そのためには、「不安」ではなく「希望」
取り除くことからはじめてみましょう
地域の一員として地域全体でと
いくことが大切です。

都筑区の認知症カフェで
を大切に、見守り支え
溶け込んで暮らし
して取り組

認知症カフェ連絡会

カフェを運営している人や関心のある人が、情報交換や
悩みを共有し学び合える場として立ち上がりました

私の活動の原点コツコツカフェは、夫が認知症になった妻の、「地域で一緒に暮らし続けたい」という思いから始まりました。月1回でも行くところがあり、気兼ねなく話ができる仲間がいることが心のよりどころになります。コロナで活動が休止している際には、相談会だけでもと思いましたが、皆さんが必要としているのはただ相談するだけの場ではなく、気軽に来て話をする中で、悩みや思いを共有できる場なんだと感じました。



▲都筑区認知症カフェ連絡会
代表 横尾さん

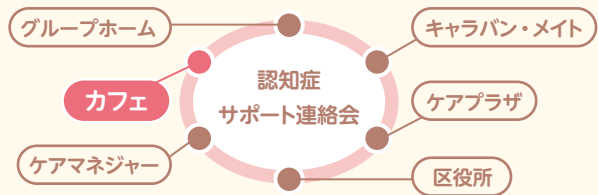
認知症になっても隠すことなく、誰とでも
気軽に話ができるまちであってほしいです

カフェを続けていく中で、年を重ねて認知症の症状が進んでくる方もいますが、日ごろの関係があることで変化にも気付けるし、見守っていける。活動休止中、参加者の「外に出たくても出かける場所もない、認知症の症状も進んでしまう…」という不安の声を受け、こうした居場所の必要性を改めて感じました。



◀都筑区認知症
サポート連絡会
代表 小泉さん

2008 認知症サポート連絡会発足



2013 サポート連絡会で川崎の認知症カフェを見学

自分たちの地域にも、こうした拠点が必要!

2014 区内初の認知症カフェ誕生(ほほえみ交流カフェ)

2016 認知症カフェ連絡会発足

ともに支え合い、歩んでくれる人の輪を身近なまちのなかにひろげていきます

都筑区認知症サポート連絡会では、認知症フォーラムや学校や地域、金融機関などでの認知症サポーター養成講座の開催など、認知症理解の普及啓発に取り組んでいます。今年で12回目となるフォーラムでは「新しい生活様式の中でも、認知症になっても暮らしやすいまちづくり」と題して動画の配信及びDVDの貸出しを行っています(動画配信は令和2年12月28日まで。「都筑区 認知症フォーラム」で検索!)

都筑区福祉保健センター高齢・障害支援課 高齢支援担当にて、フォーラムの内容を記録したDVDを貸出しています。☎045-948-2306

認知症カフェ ファミリーカフェ

何かあっても皆で支えあっている 地域とつながっていると感じられる

地域の中で気軽に集まっておしゃべりできる場所、心配事があればすぐに誰かとつながることができる場所を、という思いから地域の空き店舗を借りてカフェを立ち上げました。専門職の方や近隣の郵便局、JAなども、カフェや認知症の方の見守りに協力してくれています。新型コロナウイルス感染症の影響による休止もありましたが、6月には活動を再開。今は1日の中で参加者と時間を3回に分け、密にならないように工夫しながら活動しています。時間は短くなくても皆さん楽しみにしていて、当日忘れてしまう方もいますが、近所の方が声をかけたり、電話をかけたりして気にかけています。



▲ファミリーカフェ
代表 森さん

担い手も40歳代～80歳代までさまざま。参加者もスタッフも、認知症の方もそうでない方も関係なく気かけあい、同じ地域の住民として互いに支えています。何でもやってあげるのではなく、自分たちでできることはやってもらいながら、思いを語り、会話や笑顔があふれる場所です。



ファミリーカフェ参加者の声

まちで
声をかけられることが
増えました。

みんなで
顔を出してお話をする、
それが一番!

目が不自由で
ほとんど外出しないのですが、
ここは家から近いので
通っています。

集まれる場所が
少なくなってきた中、
少しでも顔を合わせて
話ができる場があることは
ありがたいです。



認知症かなと思ったら

認知症かなと思ったら、家族だけで抱え込まず、まずは相談しましょう。変化に気づき、見守り合える日頃のつながりが大切です。

- 相談場所**
- 区役所 高齢・障害支援課
 - 地域ケアプラザ(地域包括支援センター)

◆ お住いの地域の認知症カフェなど集いの場(横浜市ホームページ)

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/fukushi-kaigo/koreisha-kaigo/>

[ninchisyo/ninchi-torikumi/ninnti-cafe.html](https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/fukushi-kaigo/ninchisyo/ninchi-torikumi/ninnti-cafe.html)

こちらからも
アクセスできます。





医療ソーシャルワーカー(MSW)

横浜市立市民病院 患者総合サポートセンターで
医療ソーシャルワーカーとして働く

せ お し ず か
妹尾 静香さん に聞きました

医療と福祉、病院と地域の「橋渡し役」
として少しでも患者さんの人生に寄り
添える支援を大切にしています。

この仕事を選んだきっかけ

- ▶ 両親が医療従事者であり、子どもの頃から漠然と病院で働きたいと考えていました。そんな中、入学をした大学のパンフレットで社会福祉士という資格をもち、病院で相談業務ができる仕事があることを知りました。患者さんやご家族からの相談に対し、社会資源を活用し、患者さんの不安を和らげるお手伝いができることに魅力を感じています。

日々の仕事

- ▶ 患者さんやご家族が安心して治療に専念できるよう、療養先の選定、地域で生活するための医療・福祉サービスの利用支援、経済的な相談など、生活全般に関わる課題について、院内の各専門職や地域関係機関と協力・連携しながら一緒に考えていきます。行政機関や地域関係機関が開催する会議やケースカンファレンスにも参加をします。

心がけていること

- ▶ 市民病院は高度な急性期治療を担う医療機関のため、在院期間は平均 11 日前後。限られた期間で、少しでも入院時の不安が和らぐよう、退院後の生活の希望、課題の背景にあるものなど、まずはきちんと相手を知り、これからのことを一緒に考えるようにしています。

何を大切にしているのかは人それぞれ異なるので、自分の価値観を押し付けてしまわないよう心がけています。

喜び、やりがい

- ▶ 多くの方の人生や価値観に触れることができる仕事です。無力感に落ち込むこともありますが、「あなたがいて心強かった」と言ってもらえると、少しでも寄り添うことができたのかなと感じます。

地域の皆さんへ

- ▶ 病院では数少ない社会福祉専門職です。患者さんやご家族の立場に立ち、地域での生活に向けて目線を共有できるよう、医療と福祉、病院と地域をつなげる仕事です。手をひくのではなく、隣に立って一緒に歩いていける支援を大切にしています。困ったときには頼ってもらえる身近な存在でありたいです。

医療ソーシャルワーカーとは

医療ソーシャルワーカー (MSW: Medical Social Worker) とは、保健医療機関において、患者さんやその家族の抱える経済的・心理的・社会的問題の解決、調整を援助し、社会復帰の促進を図るため、主に次のような仕事を行っています。

- ① 療養中の心理的・社会的問題の解決、調整援助
- ② 退院援助
- ③ 社会復帰援助
- ④ 受診・受療援助
- ⑤ 経済的問題の解決、調整援助
- ⑥ 地域活動

市民病院 患者総合サポートセンターとは

「地域医療連携」「入院前面談」「入退院支援」「退院前後訪問」「病床管理」の役割を担う多職種職員が相互に協力し、途切れない支援を進めています。地域関係者と「顔の見える関係」を大切にした連携を重ね、「つながりの拠点」として、患者さんやご家族が安心して治療・療養生活を送れるよう、ご相談に対応しています。

※横浜市立市民病院は、令和2年5月1日に神奈川区三ツ沢西町に移転し、新市民病院として開院しました。



▲院内カンファレンスの様子

◆ この記事に関するお問合せは
横浜市社会福祉協議会 企画部企画課 ☎ 045-201-2090

横浜市内の
福祉人材に
関する
求人情報 ⇨



ウェルじゃん
求人情報



横浜市
介護人材情報

寄付をととした、コロナ下での支えあい

新型コロナウイルス感染症の影響などによる 困難を抱える方への食支援

横浜市社会福祉協議会では、学生、ひとり親世帯をはじめ、新型コロナウイルス感染症の影響などにより生活に困窮する世帯に対して、寄付金を募集して購入した食料品や、寄付物品などを活用した食の支援を行っています。

ご寄付をありがとうございました

困窮者支援 学生支援 ひとり親世帯支援

〈合計〉 8,175,954円

一緒にがんばろう!!



ひとり親世帯むけ食支援「ヨコ食ギフト」

コロナ下での生活についてひとり親世帯にヒアリングを行ったところ「コロナで内定が取り消しになってしまった」「切り詰められるとすれば食費ですが、もともと削れるところがほとんどなくて…」といったお困りの状況が明らかになりました。また障害のある方の作業所からも

「コロナで仕事の受注がなくなってしまった」といった声が聞かれました。

そこで、寄付を活用してひとり親世帯に食料品を宅配し、その梱包作業を障害者地域作業所などへ業務委託することにしました。

ヨコ食ギフトの流れ

1 食料品や支援機関のパンフレットを集め



2 箱いっぱい詰めてメッセージカードも添えて



3 ひとり親世帯500世帯へ宅配便でお届けしました



「ヨコ食ギフト」みなさまの声

寄付者の方から

直接の支援はなかなかできませんが、役に立てればと思います。

みんなで力を合わせて乗り越えましょう!

コロナで食事に困窮している子どもたちへの支援をしたいと思い寄付します。

受け取った方から

収入がなくなり、とても苦しいですが、こんなにたくさんの食材とメッセージに感激して涙が出ました。

支援してくださる方がいるということが精神的にもとても救われた思いがしました。これからも子どもとがんばっていこうと思えました!

横浜市ボランティアセンターより

横浜市ボランティアセンター
☎ 045-201-8620 ✉ yvc@yokohamashakyo.jp



横浜市社会福祉協議会への寄付は、横浜ですぐヨコで困っている人を支える「ヨコ寄付」です。

これまでの取組はこちらからご覧ください。➡



第5期 横浜市市民後見人養成課程説明会 開催!!

『地域でひとに寄り添い、ともに歩む実践 ~市民後見人になりませんか~』

平成26年度に最初の市民後見人が横浜市に誕生してから、これまでに70名以上の方が関係機関との連携のもと地域に根差したぎみ細かな活動を進めています。

さらに多くの市民後見人を募るため、第5期養成課程の開催にあたり、動画視聴による事前説明会を開催します。

※養成課程の参加には説明会視聴が必須です。



動画視聴方法 ① 動画配信 (配信期間 令和3年2月5日~20日)
② 会場 (横浜市健康福祉総合センター 中区桜木町1-1)

実施日時 ② 令和3年2月5日(金)・20日(土)
いずれも10:00~11:30
※動画の視聴環境のない方優先

申込方法 ①②ともに事前申込制 (Webフォーム、Tel)

問合せ 横浜生活あんしんセンターまで
☎045-201-2009

※養成課程の実施は、令和3年度予算成立が条件となります
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため予定が変更となる場合があります

賛助会員のご紹介

ご支援・ご協力ありがとうございました。令和2年8月1日~10月15日 新規受付・継続受付分 順不同・敬称略

団体会員

●丸五運輸 株式会社

個人会員

●佐藤 龍樹 ●押山 勝 ●星崎 清美

詳しくはホームページをご覧ください ▶

【問合せ】横浜市社会福祉協議会総務部 総務課 ☎045-201-2096



みんなのきもち ありがとう

みなさまからお寄せいただいたご寄付は、市内の市民活動団体、障害児・者団体の支援のため、有効に活用させていただきます。

よこはまふれあい助成金 助成事業 NPO法人 つなぐ

親が亡くなり相続手続きが必要となった時、一般的にも大変な場合がありますが、知的障がいなどのある方にはより支援が必要であり、成年後見制度や日常生活自立支援事業の活用だけではなく、福祉サービスの利用等周辺制度の相談も含め、ワンストップで柔軟に対応することが求められています。

NPO法人つなぐのメンバーの中には障がいのある子を持つ親もおり、勉強会を経て相談支援や後見受任に携わってきました。活動の中で、課題に感じてきた「ワンストップで柔軟に対応」する相談事業をふれあい助成金に申請し、活用させていただいています。



イメージキャラクター 「つるみケンタロウ君」

ありがとうメッセージ

障がいのある方々が将来に渡って安心して暮らせるように、という願いを込めてNPO法人つなぐを設立しました。法人で後見人等を担うメリットはたくさんありますが、法人の立上げや運営には安定的な財源と高度なスキルが必要です。特に財源については、公的な補助金のない中、皆さまの寄付金、会費、助成金が不可欠です。これまで多くの方にご支援いただきました。皆さまのご協力に感謝するとともに、引き続き親亡き後の安心を提供してまいります。今後ともご支援・ご協力のほどよろしくお願いいたします。



▲事務局メンバー



▲内部研修で人材育成

横浜市ボランティアセンターでは、寄付のご相談をお受けしています。☎045-201-8620

寄付者のご紹介

ご支援・ご協力ありがとうございました。順不同・敬称略 令和2年7月1日~9月30日受付分

善意銀行 金銭寄付者

- 日清オイリオグループ 株式会社
- ブックオフコーポレーション 株式会社
- 匿名 (1件)

善意銀行 物品寄付者

- 公益財団法人 みずほ教育福祉財団 理事長 塚本 隆史 (5件)
- 株式会社 ソディック
- 横浜信用金庫
- フィード・ワン 株式会社
- 宮内建設 株式会社
- 横浜労働者福祉協議会
- 匿名 (1件)

障害者年記念基金寄付者

- ライジング・フォース 株式会社
- 浜住研 株式会社
- 株式会社 アイキン電機工業
- 神奈川県言語障害児をもつ親の会
- 匿名 (1件)

福祉基金寄付者

- 事業特定型 (ひとり親の子どもの食を障害者の職とともに支える) (91件)

ヨコハマ寄付本寄付者

- リゾートトラスト 株式会社
- 株式会社 KANON
- 株式会社 グッドマン
- 小橋 知子

- 安藤 眞弘
- 井口 歌子
- 赤坂 純也
- 鶴沢 辰五郎
- 株式会社 東邦製作所
- 横浜市社会福祉センター利用者一同
- 横浜市瀬谷区社会福祉協議会 (2件)
- 遠山 文晴
- 匿名 (53件)

※事業特定型の寄付者については、横浜市ボランティアセンターのホームページにて掲載させていただきます。

横浜市ボランティアセンター



みんなの声



前号の感想

ボラセン情報のページで、コロナで休校中の子どもたちに食事の無償提供をしている記事が良かったです。私の息子は偏食傾向なんです。子どもの目線にたった食事の工夫やキャンプ風にあえてアルミ容器を使っているなど、私の家でも試してみたいと早速考える記事でした。たのしいヒントをありがとうございました。

(鶴見区 めめちゃん)

会社を退職して、地域と関わりたいと思っていた矢先に本誌を拝見し、特に三ツ境地区サポーターズの活動のように、無理なくできることから参加できることがわかり、とても参考になりました。

(港北区 匿名)

高次脳機能障害支援センターという活動センターがあることをはじめて知りました。家族だけで抱えてしまうことなく、外へ出て、交流のもてる場があることを普及、啓発できるといいですね！

(戸塚区 N.K)

特集記事、ボラセン情報を拝読して、協力者やボランティアになりたい人の多さに大きな心強さを感じました。ときには支え、またあるときには支えられるというお互いに支え合う精神で過ごしていれば、コロナ禍や高齢化社会であっても充実した日々を送れるのではないかと、前向きな気持ちになりました。

(横須賀市 K.K)

初めて手にし、楽しく拝読しました。中でもボラセン情報。普段、馴染みのある身近な両社の取り組み。コロナで大変な日常だからこそ、普段よりもより相互扶助を大切に思います。個人レベルでも何か人の役に立てないものか、そのような気持ちになりました。

(中区 匿名)

“福祉の仕事”のコーナーでは毎回初めて聞くような支援の取り組みを知ります。高次脳機能障害も全く初めてで教えられることが多いです。

(戸塚区 鈴木 孝雄)

三ツ境地区サポーターズの記事を読み、こんなに素晴らしい活動をしているグループがあるのかと驚きました。地域で助け合い、支え合うことは本当に大切ですね。私にはちょうど三ツ境に住んでいる知人がいて、最近病気がちで外出にも苦労しているのでさっそく教えてあげようと思います。

(東京都 匿名)

福よこクイズ

ご応募・ご感想
お待ちしております！

アトリエもくせい「さをり織りポーチ」プレゼント！

地域活動支援センター「アトリエもくせい」は神奈川県の東白楽駅近くにある知的障がいの方が通う、さをり織りの作業所です。製品は1本の糸からみなさんの感性を大切に、思い思い自分を表現しています。心を込めて織って作ったポーチはアトリエもくせいでも人気の商品です。さをり織りの温かみを感じて頂けたら嬉しいです。



色・柄はお任せください

- Q1** 特集：認知症〇〇〇は、認知症の人や家族、地域住民など誰もが、気軽に集える居場所です。(カタカナ3文字)
- Q2** 福祉の仕事：今回インタビューした妹尾さんは、医療ソーシャルワーカー(〇〇〇)として活躍しています。(アルファベット3文字)
- Q3** 市社協情報：平成26年度に最初の市民後見人が横浜市に誕生してから、〇〇名以上の市民後見人が活躍しています。(数字2文字)

応募方法

はがき・FAX・Eメールにて、右記をご記入のうえお送りください。

抽選で**15名**の方に
プレゼントを差し上げます。

締め切り：
令和3年1月29日(金) 必着

【応募先】

〒231-8482
横浜市中区桜木町1-1
横浜市社協
「福よこクイズ」係
FAX：045-201-8385
Eメール：fukuyoko@yokohamashakyo.jp

【個人情報取扱】

※応募に関わる個人情報については、当選者への発送及び福祉よこはま紙面作成の参考にもご利用させていただきます。

【項目】

- 1) Q1~3の答え
- 2) 郵便番号・住所
- 3) 氏名(ふりがな)
- 4) 年齢 5) 電話番号
- 6) 福祉よこはまの入手方法
- 7) 福祉よこはまの感想
- 8) 「みんなの声」次号掲載時の氏名の掲載可否(匿名希望の場合はイニシャルを記載)



前号196号の福よこクイズの答えは、Q1：サポーターズ Q2：環境 Q3：アポロ でした。たくさんのご応募ありがとうございました。

編集後記

認知症は誰でもなり得るものですが、これまで当事者の方の思いにはあまり注目されてこなかったように感じます。認知症になっても、積み重ねてきた自分らしさが失われるわけではなく、なじみの関係の中で安心して生活することは、結果として認知症の方の安定にもつながります。私たちは知らず知らずのうちに「認知症の方」として一般化し、症状にはかり目を向けがちですが、まずはそうした認知症バリアを取り除くことこそ、安心して暮らせるまちづくりへの第一歩のような気がします。

次号▶No.198 令和3年3月 発行予定

発行：社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会
〒231-8482 横浜市中区桜木町1-1
☎045-201-2090 FAX: 045-201-8385
Eメール：fukuyoko@yokohamashakyo.jp
URL：http://www.yokohamashakyo.jp

デザイン：株式会社 オールスタッフ

「福祉よこはま」は、共同募金配分金の一部を活用して発行しています。

広告

例えば

アナタも身近な「見守りの担い手」に！

- ☆ご近所のお茶会などで契約トラブルの情報交換
- ☆消費者被害にあって困っていたら消費生活センターを案内

高齢者に多い消費者トラブル

- ①身に覚えのない商品の送り付け商法
- ②通信販売でお試しのつもりが定期購入
- ③無料点検からの強引なりフォーム工事勧誘

横浜市消費生活総合センター

消費生活相談電話

TEL.845-6666

FAX.845-7720



令和2年度

<http://www.fukushihoken.co.jp>

ふくしの保険

検索



全国200万人加入!! 日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償 ボランティア活動保険



保険金額・年間保険料(1名あたり)

保険金の種類		プラン	基本プラン	天災・地震補償プラン	
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円		
	後遺障害保険金		1,040万円(限度額)		
	入院保険金日額		6,500円		
	手術保険金	入院中の手術		65,000円	
		外来の手術		32,500円	
	通院保険金日額		4,000円		
	地震・噴火・津波による死傷		×	○	
賠償責任の補償	賠償責任保険金(対人・対物共通)		5億円(限度額)		
年間保険料			350円	500円	

商品パンフレットは
コチラ(ふくしの保険
ホームページ)

団体割引 20%適用済 / 過去の損害率による割増引適用

<基本プランに加入される方へ>

基本プランでは、地震・噴火・津波が起因する死傷は補償されません。

◆災害ボランティア活動の参加は、「天災・地震補償プラン」への加入をおすすめします。

※被災地でのボランティア活動では、予測できない様々な事態が想定されます。二次被害への備えとしても、あらかじめ「天災・地震補償プラン」に加入いただきますと、より安心してボランティア活動に参加いただけます。

ボランティア行事用保険 (傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

地域福祉活動やボランティア活動の一環として行われる各種行事におけるケガや賠償責任を補償!

送迎サービス補償 (傷害保険)

送迎・移送サービス中の自動車事故などによるケガを補償!

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

ヘルパー・ケアマネジャーなどの活動中のケガや賠償責任を補償!

●このご案内は概要を説明したものです。お申込み、パンフレット・詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ●

団体契約者 社会福祉法人 **全国社会福祉協議会**

〈引受幹事〉 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課

TEL: 03 (3349) 5137

受付時間: 平日の9:00~17:00 (土日・祝日、12/31~1/3を除きます。)

損保ジャパン日本興亜は、関係当局の認可等を前提として、2020年4月1日に商号を変更し、「損保ジャパン」になります。

取扱代理店 株式会社 **福祉保険サービス**

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F

TEL: 03 (3581) 4667 FAX: 03 (3581) 4763

営業時間: 平日の9:30~17:30 (12/29~1/3を除きます。)

●この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。